

ほぼ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしょう」)

N. dani-shifan

発行 有限会社ナック
編集責任 中田 等
発行日 令和四年 四月
問合せ先 〇九八五五一七四〇九

「プド」のよみかたは「PUDO」

PUDOは「プド」と読みます。Pick up (受け取る)、引き取る) & Drop off (配達する、置いてくる)の頭文字をとった造語です。

「燃費モード」

私はある事情で現在、高岡から通っています。片道25分の通勤時間は当初長いと感じていました、しかし4か月も立つとアツという間に会社に着いています。

2015年に届けられた宅配便は約36億件。国土交通省の調査によると、そのうち約2割が再配達の対象になっているそうです。つまり7億件を超える荷物が再配達されていることになっており、通販サイトの利用はさらに増え、コロナ禍の現在においても宅配便の利用は増加しており、ドライバー不足といった問題への対応策と言えるでしょう。再配達を減らすなどして、無駄をなくしていかなくては大きな課題となっております。その一つの手段として期待されているのが、1度で確実に

私の場合、メルカリでの売買で先日初めてPUDOデビュー。営業所に設置されているロッカーで、24時間いつでも送ったり受け取ったり出来る、本当に便利です。当り前の様にスマホが使われる技術で、スマホが無いと面倒かもしれません。というのも伝票の紙が一切残らない仕様で、スマホアプリやパソコン上のデータで対応・管理する為です。「新しいものに飛びついてる！」と思いきや、サービス開始から既に6年経って初めての利用。ついつい以前のやり方で安心したくなる一方、新しい挑戦・技術に対する抵抗が強まってしまいがち。「違う選択肢」を探さなく選ぶよりも、他も知ってみて選択できる様になりたいところ。(紀)

通勤に使う車は一年前に購入したホンダのNバン、この車は燃費がディスプレイ表示されます。現在14.8 kmと表示されていますが、この燃費を0.1 km伸ばすことに現在ハマっています。

現在、会社で三匹の猫が飼われています。可愛くて人懐っこいので私達の癒しになっています。思い起こせば我が家も色々なペットを飼っていました。

29年前、周りが田畑だらけの中に家を建てました。外で遊んでいた七歳の息子と五歳の娘が喜んで帰って来ました。「お母さん、これを家の中で飼っていい」と言っ、虫か

ればっかりは！
息子はそれから亀やクワガタやカブトムシも育てました。用水路から捕まえたアメリカザリガニは、世話をして成長記録を夏休みの宿題で提出し、先生に褒められて嬉しそうにしていました。煮干しを食べさせてザリガニは脱皮を繰り返して大きくなりました。それから、小学五年生になった娘が犬が欲しいとねだったので、盲導犬で活躍するラブラドルレトリバーの子犬二匹が、他の犬に苛められてシッポの毛がないのを見た娘が、二匹とも連れて帰ると言いました。が、なだめすかして一匹だけにして貰いました。苛められていた為か、アベルと名付けました。アベルは噛み癖が酷くて、子犬は噛み癖が酷くて、全部、アベルに噛みつかれて犬歯の跡の穴が二カ所出ました。この癖を直す為に娘は何を考えたのか、アベルの鼻と口を掴んで、反対に噛み付いていました(笑)。又、娘は餌が気になったのか味見をしていました。感想を聞いたら、味のしないクッキーとの事でした。中学でアベルを育てた苦労を書いた作文が宮日新聞に掲載されたのを聞いて、慌てて新聞を買いに行ったのも、今ではいい思い出です。「母に怒られた時アベルは私に寄り添って慰めてくれる」との作文を読んだ、少しアベルを見直しました。ダメ犬でしたが私達家族の中心的存在で、この子がいたから子供の反抗期も無かったのかなと思います。十二歳で天国に旅立った時は喪失感に襲われて大変でした。

「ジュズネン」

「母に怒られた時アベルは私に寄り添って慰めてくれる」との作文を読んだ、少しアベルを見直しました。ダメ犬でしたが私達家族の中心的存在で、この子がいたから子供の反抗期も無かったのかなと思います。十二歳で天国に旅立った時は喪失感に襲われて大変でした。

昨年、娘から預かったザリガニが春の花が咲き乱れる庭で放し飼いにしていたら、いつの間にか逃走してなくなりました。娘は警察に捜索願(笑)を出すと云い出しました。問い合わせたら道路をトコトコ歩いている大きい亀を見つけた人が保護して届けてくれました。珍しい亀だから見つかったのはどの事でした。亀は何年生きるのでしょうか。娘の大切なペットですから長生きして欲しいものです。ある日、娘が庭で恐怖の叫び声をあげていたのを慌てて行くと見ると「又、ヤツがいました」。どうした訳か「ヤツ」は二、三年に一回は出沒します。「ヤツ」は蛇の事です。住宅地が広がっているのにどうしたのか、うちの庭が居心地がいいのか、追いついても、又、戻って来ます。花の手入れ中にもう少しで蛇を握りそうになりました。真つすぐに体を伸ばしていたら竹の支柱にしか見えません。又、私の愛車(自転車)に巻き付いて日向ぼっこをしているのを近所の人は何回も見かけていました。次はいつ出沒するのか、何を食べて生きていくのか、白蛇だったら大事にされるのでしょうか。こんなペットは欲しくない、いったい、『どこにいるの』「ヤツ」は？



(百)

らんち野郎 見参!

「県南ドライブ」の巻

寒さがしだいに緩んでいく今の季節、遠出をしなくなりますね。県外はコロナ禍で心配なので、県内にドライブに行くことにしました。

今年、ヤマザクラとソメイヨシノの入れ替わる期間が短く、北郷の山並みを愛でながら日南市に向かいます。当初は、せっかくグルメで紹介された「日高焼肉」に行こうと思いましたが、当日は夕方からの営業だったので、「とんかつ大晃」に予定変更です。到着したのが11時30分、幸いにも10分程度の待ち時間で入店出来ました。

「メンチかつ&チキン南蛮膳1045円」を注文しました。豚肉と鶏肉と米は宮崎県産で、黒豚は鹿児島県産を使用しているそうで、キャベツ、ゴハン、味噌汁のおかわりも可能です。そして、食後のホットコーヒーがセルフサービスで頂けます。

美味しい食事を堪能した後、道の駅串間まで足を延ばしたのですが、相変わらずの人気で、寿司虎もウミヤマシヨクドウにも行列が出来ていました。

串間まで来た目的は、ためきケーキの生息確認と捕獲です。ためきケーキは今では珍しいバタークリームを使用した、ケーキ職人の技が光る一品で、ためきケーキを発見することを生息確認、購入することを捕獲と言おうです。道の駅の近くにある「玉味製菓」にも生息している情報キヤッチして確認に行きました。

商品名は「ぼんぼりタヌキバターケーキ」で昔懐かしいバタークリームが味わえるケーキでした。他に、串間の芋を使用したスイートポテト



300グラムのボリュームがある「大晃ロース膳1980円」、巻梅、巻海老、海老フライ2尾が付いた「さくら膳1870円」、九ロース、海老フライ、巻梅の「九すもす膳1650円」、



「おいもちゃん」も人気の商品だそうです。(大)

いんちきクワイマーが行く!

「霧島山系 栗野岳」編

大・小、約20あまりの火山と火口湖が、北西から南東に向けて斜めラインに並ぶ。この山域全体を、昔から霧島と言っています。ちょうど宮崎と鹿児島県境をなしている、両県にまたがっているので、どちらの県においても故郷の誇れる、雄大な自然です。富士山に対する、静岡と山梨のような対抗意識は、あまり聞きません。

その霧島山系の西の端っこに、栗野岳という1100mほどの山があります。霧島の山々は、すべて歩き尽くした気でしたが、どうにも喉の小骨のように、この栗野岳が気になっていました。

二月の連休を使い行ってみることに。三時間弱のドライブは、なかなか心えましたが、県境を越え、鹿児島県の湧水町へと無事に到着。



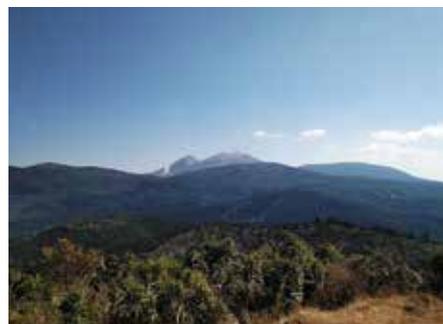
車場となっています。時刻は十時。もうすでに何台も車が停まっています。天気もよく、気温もそこまで寒くもなく絶好のハイキング日和です。

ひたすら長い階段を黙々と登り、ようやく着いた場所には丸太でこしらえた展望台がありました。その横に登山口のプレート。いよいよ登山開始となります。なだらかな勾配が続く、良いペースでグングンと歩いていきます。林業作業道を越えたあたりから、傾斜が強まり登山らしくなってきました。左手には山頂が見えています。栗野岳は馬蹄形をなした形で、大きく弧を描くように左カーブで稜線が連なっています。危険の少ない、ファミリー向けの山なのでしょうか、たくさん家族連れが元気に歩いています。

キツイ登りも、1029mのピークを越えようと、なだら

かな稜線を歩くことになりました。霧島山系が一望できる展望所や、栗野岳第二ピークを過ぎ、最後の登りで山頂へ。山頂は眺望なし。かなり地味な山頂です。ピークを踏むことを目的とせず、山麓全体を楽しむながら歩くのが良い山でした。

山頂から40分ほどで舗装された県道へと下山できます。あとは舗装道路を2キロほど歩いて、スタート地点の駐車場へ戻りました。ちょっと遠い山ですが、家族で楽しむにはオススメの山ですよ。(賢)



編集後記

最近のネット記事で、スペインのタクシーが約5000kmの旅を終え、133人の難民とともに無事マドリッドへ戻った。という記事を見ました。ウクライナ避難民の為に、スイスから救援物資をタクシーでポーランドへ届け、空になったタクシー車に避難民を乗せスペインに連れてくると言う内容でした。迅速で無駄のない民間人でしか成しえない迅速な行動ですネ! このウクライナ問題に一人ひとりが注視し声を上げ、行動を起こす事が問題解決の糸口になると私は信じています。(等)

